

総合基本計画審議会（第5回）議事録

1 日時 令和6年7月17日（水） 15:00～16:00		【第5回 審議会】
2 場所 本庁 大会議室		
3 出席状況 唐津市総合基本計画審議会委員 21名（※10名欠席） 事務局：政策部 草野部長、森副部長 市政戦略課 古賀係長、徳田主査、犬丸副主査、脇山職員 支援事業者：有限責任監査法人トーマツ 小部氏、堤氏		
議 事 内 容		
1 開会		
2 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の審議会では、基本構想素案に関する審議を行ったが、各委員の意見をもとに事務局で練り直された素案について、引き続き審議したい。 ○ また、今回より基本構想の内容を具現化したものである基本計画の審議に入ることになる。本日は、基本計画の施策体系案が示されるので、その内容についても審議を行いたい。 	会長
3 議題		
(1) 基本構想素案について		
報告事項について事務局より説明 (説明資料) 資料1：第3次唐津市総合計画 基本構想素案 資料2：基本構想素案の修正内容		事務局
○ 資料1の5ページ目、基本目標3のフレーズについて、「からっつ子」という表現では、合併前の旧唐津市内に在住のこどもに限定した印象を受ける。郡部に住むこどもを含めた市内全体のこどもを意味するフレーズとしての「からっつ子」には違和感を覚える。また、郡部の文化や大切にしてきたものなどの地域性を否定することに繋がるのではないか。		委員
○ 合併して20年が経過していることもあり、あえて旧市内や郡部などの垣根については意識していない。		事務局
○ 今は市全体が唐津であり、合併して1つになっているため「からっつ子」という言葉を使って良いと思う。		委員
○ 「からっつ子」というのは曳山をひく子のイメージあったが、今はもう全体が「からっつ子」なのかなと思う。		委員
○ 地域の誇りや思いを否定するものではない。未来をひらくという前段の言葉があるように、今後の将来を担うこどもたちの総称で「からっつ子」を採用している。		事務局

○ 私は旧町村の出身であるが、「からっつ子」という言葉には違和感がある。	委員
○ 私たちの年代は旧市と旧郡部という意識が強いが、市全体として考えると、その垣根を越えてみんなが唐津市で育つこどもという意味で「からっつ子」という意識付けも必要ではないか。	委員
○ 「からっつ子」というフレーズにマイナスのイメージはあまり感じない。合併して20年と時間も経過していることもあり、「からっつ子」というフレーズを採用してもいいと思う。	会長
○ 違和感を覚える方がいるのであれば、あえて「からっつ子」というフレーズを入れなくても、例えば「こども」など他の言葉に置き換えができれば、それでいいのではないか。	委員
○ 「からっつ子」はさらに狭く捉えると、曳山がある町のこどもだけというように受け止める方もいるかもしれない。こうした議論にならないよう慎重になるべきだと思う。	委員
○ 「からっつ子」というフレーズが地域性を否定するというのは意図していないが、委員から指摘があったとおり、一般的な言葉としては「こどもたち」というようなフレーズに置き換えができると思う。しかし、市内に住む多くのこどもたちが就職や進学に伴い、唐津から転出する傾向にあることから、唐津を好きになってもらう、郷土愛をもってもらう、今後はそのためのさらなる取組が必要であり、唐津らしさを出すために少し踏み込んだフレーズとして「からっつ子」という言葉を選んだ。違和感があるのであれば、一般的な言葉に置き換えたいと思う。	事務局
○ 「からっつ子」という表現は、地域関係なく愛情のひとつだと思う。住んでいるところに関係なく地域に愛着が沸くようなイメージで、「からっつ子」という言葉を色々な場面で使うことには賛成できる。	委員
○ 違和感を覚える方がいるならば、あえて採用する必要はないと思う。「からっつ子」という言葉に違和感を持たれる方がいらっしやることは、理解しなければならないのではないか。	会長
○ 私たちの世代は唐津と郡部という意識があったが、せつかく合併して20年が経過し、これからは唐津と郡部の垣根をなくし、一緒にやっぺいこうという意味で唐津全体の子という意味の「からっつ子」という意識でこどもたちを育てるべきだと思う。いつまでも唐津と郡部という関係に固執しないで、全体で分け隔てなくやっぺいこうという表れだと思うので、フレーズは変更せずにこのまま残しておいていいと思う。	委員
○ この件については、各委員の意見を踏まえたうえで、表現をあらためるかどうかについて事務局で検討してもらいたい。	会長

<p>(2) 前期基本計画の施策体系案について 事務局より議事内容を説明 (説明資料) 資料3：第3次唐津市総合計画（前期基本計画）の計画体系図（案） 資料4：計画体系図に関する補足資料</p> <p>○ 基本施策④「様々な暮らし方を応援する移住・定住の促進」の単位施策のひとつに「シビックプライド」という言葉が出てくるがどういう意味なのか。また、成果指標として「人口のうち（20～39歳）が占める割合」を設定している意図を教えてください。</p> <p>○ 「シビックプライド」は、地域に対する住民の誇りや愛着などを表す言葉として使用している。</p> <p>○ 「人口のうち（20～39歳）が占める割合」については、若者の郷土愛の醸成が市内居住者の若者の割合を高めることにつながるという考えのもと設定している。なお、指標設定の妥当性については、今後も原課と協議しながら検討を進めていく。</p> <p>○ 「シビックプライド」という言葉は、市民に伝わりにくいのではないかと。</p> <p>○ 分かりにくいという意見を踏まえ、フレーズの変更は検討したいが、若者の人口流出に対して、郷土愛が必要という考えのもとシビックプライドの観点で指標を設定していた。各指標の関連性と妥当性については、今後もよく検討していきたいと考えている。</p> <p>○ 基本施策②「防災体制の整備と地域防災力の強化」について、避難をしている途中に川が増水し、橋を渡れず避難場所になっている公民館に行けなかった事案があった。中学校の体育館などを有事の際の避難場所にしてほしいという話をしたが、進展がない状況である。</p> <p>○ いただいた意見は所管課に伝達したい。</p> <p>○ 国が25年ぶりに食料・農業・農村基本法を改正し、食料安全保障が基本理念の中心に定められた。具体的な施策は国がこれから示すことになると思うが、唐津ならではの取組などを検討し、基本計画に反映していただきたい。</p> <p>○ 基本施策または単位施策の中で、具体的な取組にまで落とし込めるのかを所管課と検討したい。</p> <p>○ 今回の資料のみだと数値目標が妥当なのか分からない。質問に対する説明の中で理解できることが多々あった。数値目標は単位施策を中心となって取り組む原課が提案されるのだと思うが、今後はこれをどのように確定していくのか。</p> <p>○ 今回資料で検討段階のものをお示ししているが、今後、各委員の意見を踏まえて整理していきたいと考えている。</p>	<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>
---	---

<p>○ 基本計画に掲げる施策は予算が必要になるものもあると思うが、財政指標とリンクした数値目標になっているのか。</p>	委員
<p>○ 成果指標や数値目標を設定するときの考え方としては、予算を投じれば直ぐに達成できるものではなく、取組によってどのような成果が生まれるのか、そして評価するときのためにそれを定量化できるかどうか重要だと考えている。</p>	事務局
<p>○ 数値目標は根拠のある数値となっているのか。令和11年度の目標値は原課が見込みで設定した数値なのか。</p>	委員
<p>○ 令和5年度時点で現在把握できている数値を基準として、公表データや各課が保有しているデータをもとに令和11年度の目標値を設定している。</p>	事務局
<p>○ 基本施策⑫「誰もが楽しみをもち感動できるスポーツ交流の促進」について、体育施設利用者数の目標値が5年で140人程度しか増えていない。生涯スポーツを促進していくのであれば、もう少し高い数値を設定できないか。</p> <p>○ 基本施策⑬「唐津のまつりや伝統文化を軸とした観光誘客の促進」について、「文化芸術活動へ満足している人の割合」の目標値が下がっているのも気になる。</p> <p>○ 基本施策⑭「安心して出産や子育てができる環境の整備」について、「唐津で子育てしたいと思う親の割合」は是非100%を目標値として目指してほしい。</p>	委員
<p>○ いただいた意見については、今後、原課と協議のうえ検討していきたい。</p>	事務局
<p>4 閉会</p> <p style="text-align: right;">以下余白</p>	